

フランス本国の火山洞窟

本多力 (HONDA, Tsutomu NPO 法人火山洞窟学会所属 東京都在住)

1. はじめに

フランスは国土の三分の一以上が石灰岩で覆われている石灰岩国である。しかしフランスの中央部の大都市クレルモンフェラン(ボルビック水が近くで生産されており、クレルモンフェランの教会は玄武岩を使っているため黒色をおびている)のあるオーベルニュ地方と世界遺産のル・ピュイ・アン・ヴレーがあるヴレー地方には古い火山(死火山、休火山であるとの意見もある)と火山岩地帯が存在する。フランス本国には活火山はない。フランス中央部の火山分布を図1に示す。クレルモンフェラン市近くにヴルカニアという火山博物館があるので有名である。2009年8月にフランス中央部の火山岩地帯に火山洞窟の存在を確認のために調査に行ってきた。またヴルカニアにも立ち寄って参考書など購入してきたので紹介したい。

2. オーベルニュ火山帯と洞窟

クレルモンフェランの溶岩は玄武岩と安山岩である。この火山帯で最近まで噴火していたのが、といっても6000年前であるが、シェヌ・デ・ピュイ火山群である。この火山帯の観光の中心は昔パスカルが気圧を測るために登ったというピュイ・ド・ドームがある。その近くの町 Royat(ロワイヤ)を訪れ、そこに

ある二つの火山洞窟の調査を行なった。

ロワイヤの火山洞窟は二つあり一つは全面的に閉鎖で現在もう見ることは出来ない。それは「犬の洞窟」といわれているもので炭酸ガスが洞窟の地表近くにたまるので有名な洞窟である。犬を連れた人間がこの洞窟に入ると、犬だけが窒息する症状をしめすので知られている。町の中心部にあり場所を示す案内標識まであるのに(写真1)、残念ながら現在は入れない。観光案内所で聞いたところ永久に閉鎖とのこと。



写真1 「犬の洞窟」の看板と入り口

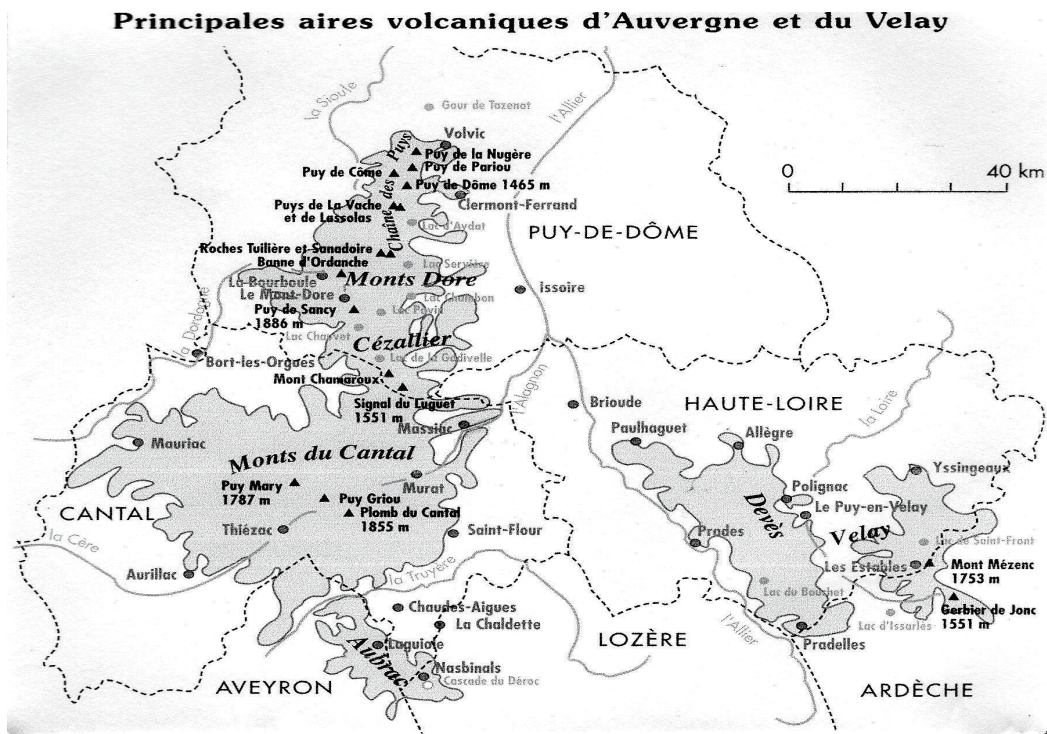


図1 フランス中央部の火山帯分布(参考文献1)

左側：オーベルニュ(シェヌ・デ・ピュイ、モンドール・セザリエ、カンタル、オブラック)火山帯
右側：ヴレー火山帯